

山行番 NO.1640 第一春山合宿

日時 2015.4.25(土)＝第二日目

山域 頸城駒ヶ岳(1487m)

コース ホワイト・クリフ発7:30—標高約350m 林道発7:53—上の登山口8:35—岩壁バンド10:25—
エンジェル・フォール上10:46—駒ヶ岳11:36～12:10—上の登山口14:02—ホワイト・クリフ入浴
—白馬「はばうえ」泊

標高差 上り 標高約380m 林道～駒ヶ岳1487m＝約1107m
下り //

参加者 L 後藤、小松、会計・浜道、掛橋

朝からお風呂に入り、とても気持ち良かった。そのせいか、豪華な朝食がより美味しく感じられ、ついつい食べ過ぎてしまった。朝食の時間を早めてもらっていた為、予定時間より早く宿を出ることが出来た。登山口に向かったが、残雪のため車では途中までしか進めなくなってしまったため、仕方なく少し戻った空きスペースに車を止めた。

昨日から好天で、この山の全貌は分かっていた。G殿から登るルートを知っていたが、想像するとかかなり厳しい山だと予想できた。そんなことを思いながら、急いで登る準備をした。麓の臺の大群を横目に、歩き始めた。30分位歩いたのだろうか(これで、朝食時間を早めてもらった分がチャラになった)、登山口にはまだまだ数十センチの雪が残っていた。

しばらく行くと急勾配になり、アイゼン装着の指示が出た。初めのうちは、雪の合間に顔を出している花の写真を撮ったりしていたが、急な勾配にだんだん余裕がなくなり、登ることに専念するようになっていた。宿の人が今年南風が吹かなかったから雪解けが遅いと言っていた。今年は、雪が多く夏の登山道が分からなかった。

この山に何回も来ているG殿もこんなに多い雪は初めてとのことだった。それでもG殿は記憶を辿りながら進んでいたようで、しばらく行くと、日当たりいい場所に出て、夏の登山道が現れた。流石、G殿である。

今日は、雪道、夏道と交互に現れていたため、終始アイゼンを装着した登山となっていた。岩壁バンドでヘルメットを装着した。夏道でのアイゼンは、落石に十二分に注意が必要だった。急勾配に張られたロープを掴むと、ロープにあおられた小石で落石が起こったこともあり、大事には至らなかったが、落石の怖さを改めて感じる事となった。麻袋が敷かれた道にアイゼンを引っ掛けないように、落石を起こさないように、細心の注意を払って登って行った。

直ぐに、エンジェル・フォールの上に出た。そこは、朝、あんなに遠くに見えた場所だった。滝の上は雪がまだまだ沢山残っていた。雪の下には雪解け水がゴウゴウと音を立てて流れていて、その上を歩いた。ここで滑ったら、滝に一直線。解けた雪にはまってしまったら水の中へ。

そう思うと緊張が走った。G殿はピッケルで、後続の為、大きな「バケツ」を掘って慎重に進んで行った。その後をH姫、私、K殿の順に慎重に続いた。少し行くと眼下の景色が開けてきた。勾配が緩み、周りを見る余裕が出ていた。今日は春山の穏やかな気候だったが、残念ながら、直ぐ近くの雨飾山が雲の合間に見え隠れしていた。

私は、雨飾山に登ったところがあったのでそのときのことを思い出しながら歩いていた。もう直ぐ、頂上だろうか？H姫とそう話す余裕も出てきて、G殿に確認した。もう直ぐとのこと。この雪は2メートルくらい積もっていたのだろうか？木の横だけ雪は解けていたが地面はまだ見えない



根知から仰ぐ
頸城駒ヶ岳



凄い残雪



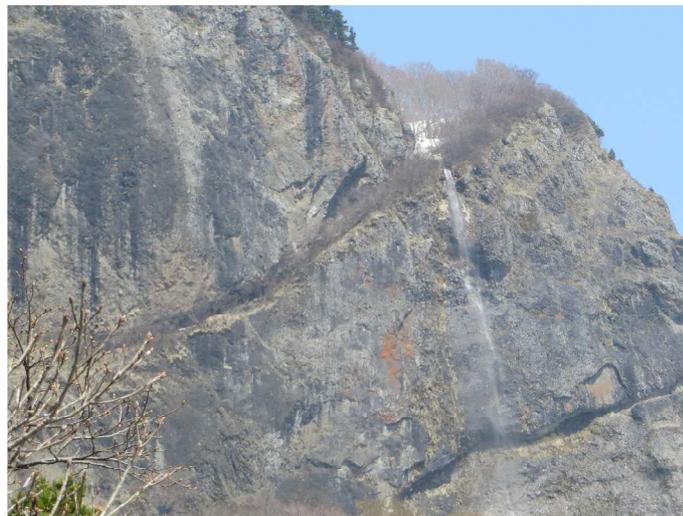
フキ畑



下部雪田



岩壁下



糸魚川バンド

エンジェル・フォール
高差=150m
斜道が、
糸魚川バンド

ところもあった。

頂上に到着した。雪のせいか広い頂上に見えた。その中でも一番高そうなところに座って昼食を取った。朝、十分な食事を取ったおかげで、行動食もほとんど取らずにすんでいた。しかし、流石にお腹は空いていて、おにぎりが美味しかった。

G殿は、ここには、祠と三角点があると教えてくれたが、雪に覆われまったく分からなかった。私は、雲の間を見え隠れしている雨飾山を眺めていて、いつものように頂上での時間を楽しんでいた。私は、山で見る景色が大好きだと改めて思っていた。

頂上での時間の経つのは早く、下山が始まった。頂上を振り返り、惜しみながら歩いた。初めの緩やかな勾配ではぐいぐい下れた。直ぐに、急勾配となり、雪解けが進んで、ザラザラ雪に足を取られやすく、登りで疲れていた足に力が入らなくなっていた。直ぐにG殿からの注意の指示が入った。アイゼンを雪面に垂直に入れてピッケルの角度を考え、力強く刺さなければならない。疲れた体は、思うようにならないが、注意を払って下っていった。注意していてもしきれないのが、雪道の自然の落とし穴だった。私の前後からも落とし穴にはまった声が聞こえていた。

数時間前に登ってきた足跡は、雪が解けて消されていたが、G殿は下りていった。流石のG殿だ。登り口の直ぐ横に出ていた。朝、横目に見ていた麓の臺を袋がいっぱいになるまで収穫して、山を十分に楽しんだ。朝の宿に戻り、塩の道温泉に入り、今日の宿、はばうえに向かった。夕飯に収穫したばかりの麓の臺もてんぷらにしてもらい、季節の美味しいものを十分に味わった。



上部雪田



駒ヶ岳頂上



今日は、春山、季節の食事を十分堪能した一日となりました。リーダG殿、H姫、K殿のおかげです。ありがとうございました。

その他の記述（後藤）

1. ホワイト・クリフで、「昨日上った方が、雪崩に遭った」の情報だったが、ホント??

2. 逆に林道の残雪情報は、なにも無かった。
3. 地元、糸魚川労山のK氏にして、「・・・駒ヶ岳の写真、ありがとうございました。やはり、雪多いです～。私の駒ヶ岳は、登山道調査を兼ねて早くても毎年5月中ごろです。もちろん雪はありますが、これほどの雪は経験ありません・・・」でした。
4. しかし、雪が多いと、藪は少なく、特に下山は、ダイレクトにガンガン下れ、超快適だった。
5. 「バケツ」=ピッケルで急な雪壁に靴がスッポリ入る位の大きな足場を作ること。従って、安心・安全な歩行ができる。
6. ホワイト・クリフは、経営者が変わった。従って、今までより宿泊費は、約1000ー上がった。しかし、食事は良かった。風呂も相変わらず、アルカリ・ヌルヌルで素晴らしい。
7. 毎回、下山後、無料で入浴させて貰っていた。今回もお願いしたら、駄目だったが、そこは「H交渉人」のお蔭で、「特別優待券」をいただき、無料入浴出来た。有料の場合=500ー
8. フキは、開いていないもの物を、大量にゲット。フキ味噌・天ぷら・味噌汁を楽しんだ。しかし、このフキは半端でない。何故なら、農家の方が、田んぼの畔のフキを、草刈機で刈っている・・・。これ、本当の話です。(笑い)



まだまだ若い
皆さま

